

定義

- ・令和4年度内(令和4年4月1日～令和5年3月31日)退院患者とする。
- ・医療保険のみを使用された患者が対象となり、自然分娩や労災、交通事故等は除く。
- ・全国の平均在院日数は、令和4年度DPC対象病院における診断群分類別平均在院日数を使用する。
- ・平均年齢は、入院した時点における年齢を基準とする。
- ・転院は、最終的な退院先が「転院」の患者とする。

DPC制度とは

「診断群分類による包括評価」をいいます。平成15年に日本独自で導入された、急性期入院医療を対象とした診療報酬の包括評価制度です。このDPC制度は、医師によって決定される最も医療資源を投入した傷病名と、その入院期間中に実施された医療行為に対する医療費が1日当たりの包括点数として包括評価されます。(全ての診療行為が包括されるわけではなく、一部出来高算定される医療行為もあります。)

指標内用語解説

>DPCコード(DPC14桁分類)

14桁のDPCコードは、医師により決定される最も医療資源を投入した傷病名傷病名を表す疾患コード(頭6桁)と、その入院期間中に実施された医療行為等の組み合わせ(残り8桁)により分類されます。最も医療資源を投入した傷病名や、実施される医療行為は患者さんごとで異なりますので、DPCコードは一入院ごと患者さん一人ひとりに付与されるものです。このDPCコードは全国共通で使用されております。

>名称

入院治療の主となった傷病名、それに対して行われた手術、処置等の医療行為が表示されます。

>平均在院日数(自院・全国)

自院: 在院日数を症例毎に集計し、その値を症例数で割った平均値です。

全国: 厚生労働省より公表された、令和元年度全国平均在院日数をもとにしています。

※以降の指標でも同様

>転院率

最終的な退院先が「転院」の患者さんの割合です。

※以降の指標でも同様

>ICD-10とは

「疾病及び関連保健問題の国際統計分類:International Statistical Classification of Diseases and Related Health Problems」の略称です。異なる国や地域から、異なる時点で集計された死亡や疾病のデータの体系的な記録、分析、解釈及び比較を行うため、世界保健機構憲章に基づき、世界保健機構(WHO)が作成した分類です。医療機関においては、現在、ICD-10(2003年版)に準拠した「疾病、傷害及び死因の統計分類」により、傷病の分類や診療録の管理等に活用されています。(引用:厚生労働省「疾病、傷害及び死因の統計分類」)

>Kコード

医科点数表で定められた手術のコードです。

>名称(部位)

Kコードに対する手術術式の名称です。

>平均術前日数・平均術後日数

平均術前日数:入院日から手術日まで(手術日当日は含まない)の日数

平均術後日数:手術日(手術日当日は含まない)から退院日までの日数